

令和 2年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R02年度	R03年度	R04年度
活動 指標	食育推進委員会開催回数	回	目標	3.00	3.00	3.00
	健康増進課、給食センター、農政課、子ども福祉課、学校栄養教諭で組織 食育の推進について協議する		実績	1.00	0.00	0.00
	食育講演会の開催	回	目標	1.00	3.00	1.00
	対象について隔年で一般市民と中学生を交互に実施する		実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	食育講演会参加者数	人	目標	100.00	1,000.00	100.00
	食育講演会の参加延べ人数		実績	0.00	0.00	0.00
	食育啓発ポスター応募者数	人	目標	200.00	200.00	200.00
	食育推進の一環として小中学生に対し、ポスター公募を行う		実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	すべての世代に正しい食の普及・啓発が必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	食育基本法において食育推進の実施主体は市町村と定められている。
	手段の妥当性	A 妥当である	食育の普及・啓発の手段については、推進委員会で協議し決定する。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらも言えない	コスト効率は高いが、全市民に対しては食育に対する理解度を把握できていない。
公平性	受益者の偏り	B どちらも言えない	講演会を対象（中学生・一般・職域連携）を絞って講話のテーマを決めた方が効果的と思われる。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	講演会受講者については、食に関心を持てたという声が聴かれるため、繰り返すことで成果が上がる。
進捗度	事業の進捗	B どちらも言えない	食育講演会では、一般市民対象の場合には参加者の偏りが見られる。また、中学生対象の場合には全生徒に実施できているが、講演後のアンケートでは、食育を実践できていない又はわからないと回答した方が3割ほどいる。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
食育に関しては市民の意識に浸透するには相当の時間を要するものと判断するため、講演会等の開催について計画的に実施していく必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
行政機関及び教育機関との関係の強化を図り、市民に対する意識付けとして、小学校・中学校・高等学校など次世代を担う者に対し、積極的に取り組む必要がある。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 多くの市民が食育について関心を持ち生活できるよう、保育・教育関係者、関係部署と連携し啓発活動を継続し、より効果的な事業を展開する。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	